令和6年度　広島県病害虫発生予察情報 技術情報第８号

ムギ類赤かび病を適期に防除しましょう！

令和７年３月14日発表　広島県西部農業技術指導所

赤かび病は人畜に有害なかび毒を産生する病害であり、農産物規格規定では、普通小麦及び強力小麦のうち一等、二等のものには赤かび病が0.0%（１万粒中４粒）を超えて混入してはならない、とされています。中国地方１か月予報（３月13日発表）では気温はほぼ平年並の見込みとなっており、出穂時期も平年並と予想されます。防除時期に注意しましょう。

防除適期（表参照）

・赤かび病は開花期に最も感染しやすいため、防除は開花始めとその７～10日後の２回防除を行いましょう。開花始めは、小麦では出穂から約７日後、大麦では出穂から約３日後です。ただし、二条大麦は葯殻抽出期とその７～10日後の２回防除を行いましょう。

・気温により出穂状況が前後するため、ほ場をこまめに巡回し、確認しましょう。

		開花始め		※葯殻抽出期（二条大麦の場合）
小麦	防除	1回目	←→	2回目
	出穂後日数	7	7～10日間隔	14～17
六条大麦、キラリモチ	防除	1回目	←→	2回目
	出穂後日数	3	7～10日間隔	10～13
二条大麦	防除	1回目	←→	2回目
	出穂後日数	13	7～10日間隔	20～23

開花始め：１穂につき数花開花しているものが、全穂数の10～20 %に達した日。
葯殻抽出期：頴の先端から葯殻が押し出される時期

防除薬剤について

・薬剤散布については、農薬使用基準（使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、 周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。 なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム（https://pesticide.maff.go.jp/）」を参照してください。

お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739－0151
東広島市八本松町原6869
TEL：082-420-9662（直通）

ひろしま病害虫情報
（https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/）